



鵜沢中部小学校だより

せおと



2013. 3. 19撮影 卒業生見送り

平成25年3月21日 No.11 発行者 校長 岡崎紀子

平成24年度鵜沢中部小学校卒業証書授与式



自分の夢に向かって、しっかり生きていこう！

☆ぼくの夢は、テニスプレーヤーになることです。中学校のテニス部に入ってたくさん練習し、兄と二人で プロ選手になりたいです。

☆海外に行って、スポーツ選手として活躍したいです。自分に厳しくなり、体をきたえておきます。

☆ぼくの夢は、インドに行ってタージマハルとヘビつかいを見ることです。そのために、ヒンディー語を覚えたいです。

☆私の夢は、動物園の飼育員です。動物について詳しくなるために、たくさん勉強したいです。

☆20カ国以上の国に旅行して、いろいろな文化を見てきたいです。社会科でいろいろな国について学習して、興味を持ちました。

☆私は、漫画家になるのが夢です。夢を実現させるために、絵の練習をたくさんしたいです。

卒業生は、門出のことばの中で上記のように将来の夢をしっかり語っていました。右ページは、在校生の贈ることばの一部です。感動的な最後の授業を終えた6人の卒業生の中学校での活躍をお祈りいたします。



鵜沢中部小学校の皆様、はじめまして！



私は50年前の卒業生です。90歳になる母（長知沢で一人暮らしをしています）の介護で病院・農協・銀行を一緒に回り玄関先にどこにも立派な菊の鉢が飾られていました。立ち止まってよく見ると、皆様が育てられたとの事、みんなの笑顔とともにうれしさがこみ上げてきました。母の介護でちょっぴり悩んでいた私は元気をいただきましたよ。敬老の日にはお手紙をいただいて母が喜んでいたことを思い出しました。

運動場の石拾いをしたこと、宮沢洋校長先生をはじめ保坂教頭先生、みんないっしょうけんめい私たちを育て教えてくださっていたこと、今にして身にしみて参ります。良い時代に幼少期、児童期を送れたことは何よりも幸せに思います。500円玉をもらって上田書店で本を買ったことは大切な思い出です。それからとても本好きになりました。「小公女・家なき子」不思議と本を求めたものです。曾祖母からいただいた500円の大切な思い出です。その曾祖母の50回忌も昨年済ませることができました。

子どもたち11人分の図書カードに上記のようなお手紙が添えられていましたので、集会の中で紹介しました。

樋口様には学校だよりと学校紹介パンフレットをお届けします。ありがとうございました。

皆様も自分を大切に、家族を大切に、人に感謝することができる大人に成長してくださいね。私もこうして皆様にお手紙が書けること、そして、曾祖母が私に本の喜びを与えてくれたように在校生の皆様にもこうしてプレゼントできること、これまで成長できたことが喜びです。曾祖母からいただいた幸せを中部小学校の皆様にもおすそ分けします。

未来に向かって大きく羽ばたいてくださいね。

富士川のせせらぎ聞くやねこやなぎ

早春の光あふれる禹の瀬かな 好美

豊かな富士川の流れは心をいやしてくれます。特に、芽吹き頃の山とともに・・・。

大切に大切にみんなで心を込めて育てていただいた菊のお花に勇気と元気をいただきました。皆様の笑顔とともに、たくさんの幸せをいただきました。ありがとうございました。



昭和町在住 樋口好美

送ることば

在校生より

〇〇さん、うんどう会するときなど、いつもたくさんのアドバイスをしてくれました。ぼくがこまっているときには、すぐにてつだって助けてくれました。とてもたのしい、ぼくたちのヒーローでした。

〇〇さん、ユーモアたっぷりでいつもおもしろい話をしてくれました。ぼくが悩んでいるときには、相談にのってくれるやさしさもあります。「やるときはやる」という「けじめ」をつけられるところがかっこいいです。

〇〇さん、楽しい思い出がいっぱいです。いつもぼくと遊んでくれて、楽しい話や、おもしろいことをして、たくさん笑わせてくれました。放送健康委員会の仕事を一生懸命して、委員会をまとめている姿は、たよになる6年生そのものでした。

〇〇さん、とても思いやりがある人です。児童会長として、いつもみんなのことを考えて行動し、ぼくたちをまとめてくれました。ぼくが泣いているときには、やさしく声をかけてなぐさめてくれました。

〇〇さん、いつもサッカーをわかりやすく教えてくれました。運動会ときには、毎日ドラムメジャーの練習をしている姿を見て、ぼくもがんばろうと思っていました。どんなときでもみんなのことを気にかけて行動してくれるところを真似したいです。

〇〇さん、いつも明るく声をかけてくれたり、みんなをさそって遊んでくれましたね。その明るさはみんなを元気にしたり、楽しい気持ちにさせてくれる魔法みたいでした。こまったときには助けてくれるところも、たのしいです。

チャレンジランキング大会へのご協力、ありがとうございました！

<参加人数>

事前申込者	当日申込者	当日参加者	付添家族	スタッフ
106人	20人	97人	*31人	*36人

今回の申込者（事前＋当日あわせて126人）の中で、
リピーターはどれくらいか

- ① 第1回と今回申し込んだ人・・・・・・・・・・33人
- ② 第2回と今回申し込んだ人・・・・・・・・・・57人
- ③ ①②のうち、3回とも申し込んでいる人・・・27人

申込者の地区別内訳（受付が閉まってから入った親子2人が不明です）

富士川町 鰍沢地区	富士川町 増穂地区	市川三郷町	身延町	南アルプス市	甲斐市	甲府市
42人	44人	22人	6人	3人	3人	4人

<アンケート結果から>

○第3回目ということもあり、この大会を毎年楽しみに参加している方が多かったです。他都市からの参加者はNHKイベントCMで知ったそうです。先日、南アルプスで買い物をしていますと、知らない女性の方から「チャレランのスタッフの方ですね。次回はいつですか。我が家では豆つまみや足踏みの練習を子どもたちがしています。豚汁もおいしくて大好評でした。」というお声をいただきました。

○豚汁がおいしかったという感想がとても多かったです。

スタッフの方々が何度も打合せを行い、大会運営方法も毎年改善されてスムーズに進行することができました。また、当日、中部区活性化プログラム会員の方々がスタッフとして大活躍してくださったことも大きな力となりました。ご支援、ご協力ありがとうございました。



幼年童話「でんでんむしのかなしみ」は、平成10年9月にインドで開催された国際児童図書評議会世界大会でのビデオによる講演で、皇后美智子様が幼年期に心の支えになった話として言及され、注目を浴びた新美南吉の作品です。

一匹のでんでんむしは、今まで気づかなかったくらい幸せに満ちた生活を送っていましたが、ある時、たくさんの悲しみが殻の中に詰まっていることに気が付きます。私たちは、悲しいことばかりではありませんが、大変なこともなんとか乗り越えて生活しています。悲しいことや辛いことがあるからこそ喜びも大きいのです。今、進学や進級に向けてがんばっている子どもたちには無縁の作品ですが、子どもたちは、これからいろいろなことを経験していくことでしょう。悲しみや辛いこと、それを乗り越えられる力は、お父さんやお母さんをはじめ周りの人たちから、十分に愛されて、大切にされて、認められて、育てられていくのではないのでしょうか。これからの時代を生きる子どもたちをしっかりと支えていくことが、私たちにできることではないのでしょうか。

でんでんむしのかなしみ

「匹のでんでんむしがありました。
ある日、そのでんでんむしは、たいへんなことに気がつきました。
わたしは今まで、うっかりしていたけれど、わたしの背中の殻の中には、悲しみがいっぱい詰まっているではないか。」
この悲しみは、どうしたらよいでしょう。
でんでんむしは、お友だちのでんでんむしのところにやっていきました。
わたしはもう、生きていられません。」
と、そのでんでんむしは、お友だちに言いました。
「なんですか。」
と、お友だちのでんでんむしは聞きました。
わたしは、なんという、不幸せな者でしょう。わたしの背中の殻の中には、悲しみが、いっぱい詰まっているのです。」
と、初めのでんでんむしが、話しました。
すると、お友だちのでんでんむしは言いました。
「あなたはかりではありません。わたしの背中には、悲しみはいっぱいです。」
それじゃしかたないと思って、初めのでんでんむし



作 者：新美南吉
画 家：かみや しん
発行所：大日本図書株式会社

しは、別のお友だちのところへ行きました。
すると、そのお友だちも言いました。
「あなたはかりじゃありません。わたしの背中には、悲しみはいっぱいです。」
そこで、初めのでんでんむしは、また別の、お友だちのところへ行きました。
こうして、お友だちを順々に訪ねて行きました。
が、どの友だちも、同じことをいうのでありまして。
とうとう、初めのでんでんむしは、気がつきました。
悲しみは、だれでも持っているのだ。わたしばかりではないのだ。わたしは、わたしの悲しみを、こらえて行かなきゃならない。」
そして、このでんでんむしは、もう、嘆くのをやめたのであります。